

# 日蓮大聖人御書全集

うえのどのごへんじ

## 上野殿御返事

しおいちだくよう こと

### (塩一駄供養の事)

新版  
1881  
〜  
1882

うえのどのごへんじ しおいちだくよう こと

# 上野殿御返事 (塩一駄供養の事)

こうあんがんねん

がつ にち

さい

なんじようときみつ

弘安元年 (78) 9月19日

57歳

南条時光

しおいちだ

薑

おく

た

そうろう

塩一駄・はじかみ、送り給ひ候。

こがねおお

にほんこく

すな

たれ

宝

金多くして日本国の沙のごとくならば、誰かたからとし

箱

底

納

もちいとお

いちえんぶだい

だいち

てはこのそこにおさむべき。餅多くして一閻浮提の大地の

たれ

こめ

おん

重

ごとくならば、誰か米の恩をおもくせん。

ことし

しょうがつ

ひび

あめ降

殊

しちがつ

おおあめ

暇

今年は正月より日々に雨ふり、ことに七月より大雨ひま

さんちゆう

うえ

みなみ

はき

いがわ

きた

はやかわ

なし。このところは山中なる上、南は波木井河、北は早河、

ひがし

ふじかわ

にし

しんざん

ながあめ

おおあめ

ときどき

ひび

続

東は富士河、西は深山なれば、長雨・大雨、時々日々につづ

くあいだ、山さけて谷をうずみ、石ながれて道をふせぐ。河

猛 やま裂 たに 埋 いし 流 みち 防 かわ  
ふね 渡 ふにん ごこく 乏 しょうにん

たけくして船わたらず、富人なくして五穀ともし。商人な

ひと 集 しちがつ 塩 いっしょう

くして人あつまることなし。七月などは、しお一升を

銭 ひやく 塩 ごごう むぎいっと 替 そうら いま 全 体

ぜに百、しお五合を麦一斗にかえ候いしが、今はぜんたい

塩 なに 替 味 噌 絶 しょうに 乳

しおなし。何をもつてかかうべき。みそもたえぬ。小児のち

徳

をしのぶがごとし。

かかるところに、このしおを一駄給びて 候 御志、

だいち 厚 こくう 塩 いちだた そうろうおんこころざし

大地よりもあつく、虚空よりもひろし。予が言は力及ぶ

ほけきよう しゃかぶつ 譲 広 よ ことば ちからおよ

べからず。ただ法華経と釈迦仏とにゆずりまいらせ候。事

そうろう こと

お

も

し

尽

き

多しと申せども、紙上にはつくしがたし。恐々謹言。

こうあんがんねんくがつじゅうくにち

にちれん

かおう

弘安元年九月十九日

日蓮

花押

うえのどのごへんじ

上野殿御返事